

地球環境基金

第3回オンラインセミナー



# オンラインミーティングの ファシリテーション (応用編)

～オンラインでも愛着と主体性が高まるミーティングのつくり方～



独立行政法人 環境再生保全機構

# 講師プロフィール 五井渕 利明 氏



一般社団法人JIMI-Lab 代表理事  
NPO法人CRファクトリー 副理事長・事業部長  
認定NPO法人かものはしプロジェクト  
日本事業部 マネージャー  
株式会社ウィル・シード 研修講師

妻の夫、2人の娘の父  
趣味：ラジオ、筋トレ、仕事

**「共に生きたい」をつくる**



**「ボランティアな人々」**で構成されるチームで、  
**「活気あふれた継続的な運営」**を実現しながら、  
**「高い成果」と「人が生き活きと幸せになる組織」**  
の両方を創り出すことが私たちのテーマです。

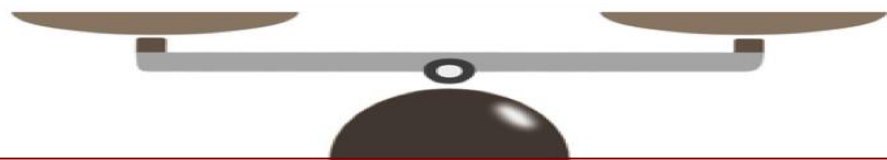
## 【強くあたたかい組織・コミュニティ】

成果  
スピード  
推進力

**強さ**

楽しさ  
居心地の良さ  
充実感

**あたたかさ**





**実践的なコツを体得する**



## **少人数・1対1・個別**

Zoomなどのオンラインツールは大人数でのコミュニケーションに向いていない。少人数をいかにつくるかが鍵。少人数や個別で「温度」や「関係性」をあたためていく。

## **短い時間で頻度高く**

移動しなくて済むオンラインミーティングは、隙間時間や短い時間での実施がやりやすい。30分や45分や1時間の短めのミーティングや面談を「頻度高く」やるのが良い。

## **オンライン化支援・ITツールの手ほどき**

通信環境（WiFi）と端末（パソコン・タブレット・スマホ）の整備支援を進めると共に、ITツールへの抵抗感がある方への「個別でていねいな手ほどき」がポイントになる。

# オンラインミーティング運営のポイント(基礎)



## チェックイン・チェックアウト

いきなり議題に入らずに、まずは雑談や気持ちの共有をしてからミーティングに入る。近況報告や今の気持ちなどをテーマにして、一人1分くらいで状況を確認し合う。



## Googleドキュメントなどツールの活用

オンラインの大きな利点の一つはドキュメントの同時閲覧・編集がしやすくなったこと。オンラインツールを活用することで使うことで、共通認識が作りやすくなる。



## リアクション（拍手・うなづき・笑顔）

オンラインのやりにくさの一つはメンバーのリアクションがわかりづらいこと。話しやすい雰囲気をつくって場を盛り上げるためには、少しだけオーバーなリアクションを。

# オンラインミーティング運営のポイント(応用)



## 意見・アイデアを出しやすくする仕掛け

オンラインの特性上、「みんなどう思う？」という呼びかけでは出てこない場合がある。個人ワークの時間をとる、チャットやドキュメントに記入する、などの工夫を。



## 合意形成・意思決定までたどりつくために

「決める」「握る」が難しいのもオンラインミーティング。しっかり収束させるために、ゴール設定とたたき台の準備、全体をまとめる時間をとる、などの工夫を。



## グラウンドルールの設定

オンラインミーティングをやりやすくするためのルールを出し合うのも一つの手。基本はミュート、おやつOK、リアクションは声で、こまめな休憩、などなど。



---

# ファシリテーターの心構え





# ファシリテーターの心構え



## リアルよりも自分の意図が必要

拡散も収束も、リアルよりも意図してつくらないと起きにくい。場をうまく「握る」工夫＝事前の設計、話をふる、案を示す、などをリアルよりも多めに。



## リアクションは気にしないor引き出す

参加者の反応・感情はやっぱり読み取りにくい。いっそ気にしないと決めてしまうか、引き出す仕掛けをファシリテーションに組み込もう。



## 自分らしさを見つめ直そう

リアルよりも「場の状況に合わせて調整する」のが難しいからこそ、自分の軸をつくることが大事。自分らしさを十分にファシリテーションに活かそう。

**Q. 強くあたたかいオンラインミーティング  
のための効果的なやり方は？**

**[個人ワーク／グループワーク]**





独立行政法人 **環境再生保全機構**





独立行政法人 **環境再生保全機構**